

医療情報コミュニティの運営と地域ぐるみ医療DX推進体制の整備

富山大学附属病院 医療情報・経営戦略部 教授(部長) | 高岡 裕

病院の医療情報管理部門の持続可能な運用を実現するには、持続的な人材育成が必須である。実際、日本医療情報学会では医療情報技師育成部会がその任にあたっている。但し、地方での医療情報部門には医療情報技師がいないケースもあり、医療情報技師会だけでは医療情報コミュニティとしては不十分である。加えて効率的な病院情報部門の運用には、地域医療機関の間で情報共有する体制を作り、自院のみで蓄積利活用している知識の共有が有用である。そこでこれらを実現すべく富山県で進めている「富山医療情報研究会」の立ち上げについて提示すると共に、全国の同様の取り組みを紹介する。次に、地域の医療DXとしては、地域の医療機関の連携と高齢者を対象とした取り組みを提示したい。具体的には、自治体との連携協定の下で提供いただいた医療保険データと介護保険データを結合し統合解析を進めている、本院の事例について将来展望まで含めて紹介したい。

This manuscript gives an outline of the two issues for hospital information management. One is the human resource development and the communities for sharing and exchanging information among medical information management departments in hospitals. The other is the medical digital transformation (DX) promotion system with the local community involvements. I introduce our approach for both issues by focusing on launching Toyama Medical Informatics Study Group, cooperation with regional medical institutions, and data integration analysis for the medical insurance and the long-term care insurance in Japan.

地域における医療情報コミュニティの運営

地域における医療情報コミュニティについては、都市部と地方で事情が異なる。しかも地方によっても状況は多様である。病院の情報部門の専門職としての資格に、日本医療情報学会で認定している「医療情報技師」という資格がある。但し、地域の病院ではこの資格を有さない人員が医療情報部門の業務を担っているケースも、特に地方部で多い。また医療情報技師の資格がない場合に、医療情報技師の資格で求められる情報処理技術に関する

レベルに近い国家試験である、情報処理技術者試験のうち基本情報技術者試験に合格しているケースもある。しかし地方では、いずれの資格も持たないで医療情報部門を担当している事例も散見される。実際、日本医療情報学会医療情報技師育成部会のウェブページの「医療情報技師都道府県別分布」からは地域ごとの人材の偏在を垣間見ることができる¹⁾。そこでまず、読者の病院の医療情報部門を担う人材の能力を担保する、日本医療情報学会による検定試験について簡単に紹介する。

1. 日本医療情報学会による検定試験について

病院の医療情報部門で必要とされる専門的知識と技能を有する人材として、医療情報技師と上級医療情報技師の資格認定を、日本医療情報学会医療情報技師育成部会で実施している。2024年時点で、「医療情報基礎知識検定試験」、「医療情報技師能力検定試験」、「上級医療情報技師能力検定試験」の3種の試験が実施されている。各々の検定試験の詳細や教科書については、日本医療情報学会の医療情報技師育成部会のウェブページ(<https://www.jami.jp/hcit/>)から最新の